

露

金子みすゞ

朝のお庭の
すみっこで、
花がほろりと
泣いたこと。
もしも噂が
ひろがって
蜂のお耳へ
はいつたら
わるいことでも
したように、
蜜をかえしに
ゆくでしよう。

この詩から静かな朝を想像します。

蜂は花の蜜を吸って飛んでいきました。すると、そのとき、花から露がこぼれました。

それを見たみすゞさんは「花が泣いた」のだと思ったのです。なんだかとても美しいですね。

そしてあとに続きます。

花が泣いたことが噂になって蜂の耳に入ったら、蜂は困ってしまって泣いている花のところに戻って、そっと蜜を返すでしょうと。

だから、花が泣いたことを私は黙っておきましょう…と。

誰にも心配をかけずにそっと泣く花、それを知って蜜を返しに行く蜂、みすゞさんは、花と蜂、それぞれの立場のことを考えています。なんて思いやりがあって優しい詩なのでしょう。

「噂」は、無責任なものです。もともとの話に余計なことが加わって、小さなことが伝わるうちに誇張されて大きな話になってしまうことがよくあります。噂は尾ひれがついて、一人歩きしてしまいます。

蜂の耳に届くころにはどういうふうに伝わるのでしょうか。だから、みすゞさんは黙っているのです。

蜂は何のために蜜を吸うのでしょうか。生き物は、生きていくためには食べて行かなくてはなりません。

けれども自分が生きていくのに必要であっても、他者を傷つけたり、損なったりすることなく、他者を気遣い、思いやる心を忘れないでいたいと思います。

「噂」…について考えると、今の世の中、SNSなどで、ありもしないこと、間違ったことが広がってしまうこともあります。一度ネットに上がってしまったら、取り返しのつかないこともあります。

《人のうわさも七十五日》と言われますが、ネットにのって拡散されるとなかなか消すことができません。

何が大切で、何が真実なのか、何を信じていけばいいのかをよく考えたいものです。

